

予防・検診部会 これまでの議論のまとめ

1 目指すところ

- ・がんは診断や治療技術の進歩により、早期発見・早期治療が進められている。がんを早期に発見し治療につなげ、がんによる死亡を減少させるためには、たばこ対策など生活習慣の改善と有効ながん検診を正しく実施することが必要。
- ・このうち、前者は「県がん対策推進協議会予防・検診部会」、後者は「各がん部会」で協議。

2 平成26年度活動状況

(1) 予防・検診部会の開催

第1回 平成26年10月21日（火）

(2) 各がん部会の開催

乳がん部会：平成27年1月14日（水）

胃・大腸がん部会：平成27年1月22日（木）

子宮がん部会：平成27年1月29日（木）

肺がん部会：平成27年2月5日（木）予定

3 主な項目と論点整理

(1) がんの1次予防（発生リスクの低減）

項目	主な意見（課題や方向性など）
食生活や運動習慣等の生活習慣の改善	・朝食欠食、野菜不足、栄養バランスの偏りなどの改善に向け、体験等を重視した取組の推進
たばこ対策の推進	・男女とも20～30代の喫煙率が下がらない ・公共施設、学校の禁煙化の推進 ・幅広い機関や団体と連携した禁煙施設の拡大 ・禁煙宣言について県で検討
感染に起因するがん対策	・啓発強化

(2) がんの2次予防（早期発見・早期治療）

項目	主な意見（課題や方向性など）
受診者数の増加対策	・がん検診の受診者増加に向けた課題を明確にし、目標をもって取り組むことが必要 ・未受診者をなくす取組を強化
普及啓発の推進	・職場でのがん検診の啓発、受ける機会のない人への住民検診への啓発働き盛り世代の受診勧奨のため、被用者保険と連携強化 女性特有のがん検診（乳・子宮頸がん）の取組（例；ロコミ等）強化 ・退職前後の啓発を工夫し、職域検診から住民検診への円滑な移行
検診体制の整備	・人の集まる、広い駐車場に新たに検診車を配車することを検討するなど、具体的な課題の整理 ・特定健診と肺、胃、大腸等のセット検診の推進
がん検診の質の確保（精度管理）	・がん検診の不利益（不必要な精密検査による精神的、身体的、経済的な負担）が軽減し、早期発見の機会が失われないよう事業の質の確保 ・精密検査の受診率100%又は未把握率0%を目標に、実施体制等の改善 ・効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析の継続

(3) 子どもに対するがん教育の推進

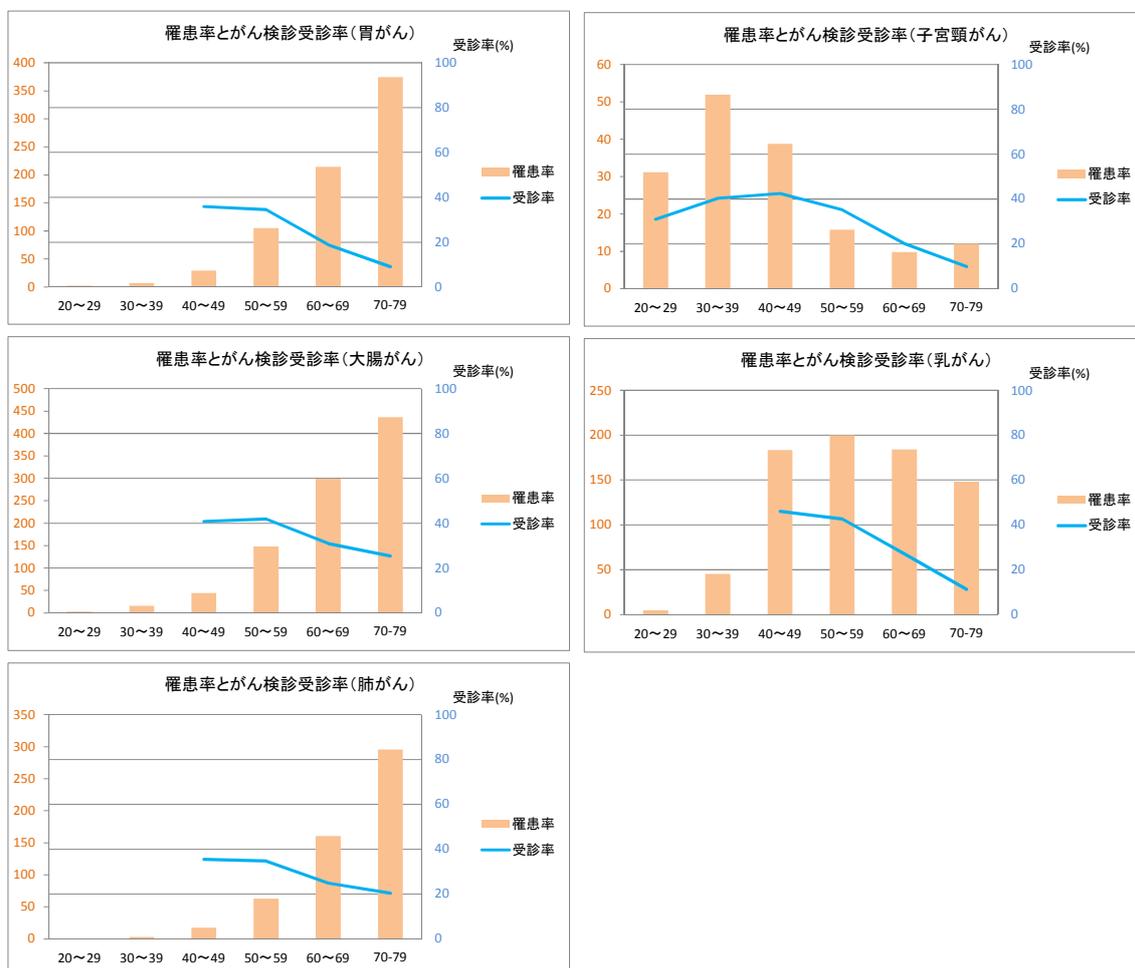
(今後の検討課題)

- ・対象に合わせた内容の工夫、伝え方の工夫。
- ・がん経験者の講話などから、がん検診の大切さを子どもから大人に伝える啓発。

【参考資料】

■年齢階級別の各がん検診の79歳までの受診率と罹患率の関連

- 胃がん、大腸がん、肺がんともに罹患率は年齢とともに高くなるが、受診率は50代以降低下しており、罹患率の高い年齢の検診受診率が極めて低い。
- 子宮頸がんについては、比較的罹患率と受診率の分布は近いが、罹患率のピークである30代の受診率を更に高める必要がある。
- 乳がんについては60代、70代の罹患率も高いため、この年齢層の受診率を高める必要がある。



保健環境科学研究所分析資料
データ：罹患率は2007年から2010年の4年間平均
検診受診率は県独自調査の2013年の値